

うしろだに 後谷ダムで動植物の観察会を実施

柏崎周辺農業水利事業所 調査設計課 佐藤直樹

平成27年6月18日（木）に後谷ダム保全エリア周辺において、小学生を対象とした、動植物の観察会を行いました。後谷ダムでは、ダム建設時に近隣の小学生の協力を得て、水没地域から保全エリアへ動植物を移植しており、ダム完成後も、移植した動植物の生息状況を確認するためのモニタリング活動を毎年続けています。今年は、事前に出前授業を行った、柏崎市立ないごう内郷小学校とふただ二田小学校の4年生29名と一緒に観察会を実施しました。



わいわいと賑やかな観察会になりました

まずは、保全エリアを歩き、そこに生息する植物を観察して、名前を記載していない図鑑に植物名を書き入れて、自分たちで完成させるフィールドワークを行いました。生徒たちは植物の葉や枝ぶり、花、果実など様々な特徴をもとに、熱心に自分だけの図鑑を作っていました。その後、ヒントとして、植物につけた名札をもとに答え合わせをしました。また、見つけた植物に触れ、ざらざらとした葉やキイチゴの実を手に取り、触感を確かめている生徒も多く見られました。



生える場所	山や野原、道ばたなどに生える。
高さ	ひざくらいの高さになる。
花や実の特徴	花はさかない。
葉の特徴	はりのような形
植物の名前	

名前を記載していない図鑑

（※回答は一番下にあります）

続いて、移植した保全エリアの希少種であるノハナショウブ、ヒツジグサと、メダカ、モリアオガエルの生息状況を調査しました。保全エリア

での調査の結果、綺麗に花が咲いたノハナショウブの他、元気に泳ぐメダカの群れ、

モリアオガエルの卵塊も発見することができました。また、岸辺に要した望遠鏡を使って湿原に浮かぶヒツジグサの葉を観察し、葉っぱの数を数えている生徒もいました。

さらに、保全区域周辺の水の透視度を測定しました。2人1組になり、息を合わせて測定を行っていました。測定を通して、生徒たちから、「生き物たちが住めるように、水を大切にしていきたい」との意見があり、水環境の大切さについて、考えるきっかけとなったようでした。

農林水産省では、環境との調和に配慮した事業実施を進めており、当事業においても、後谷ダム建設における動植物の保全等を行ってきたところです。移植や保全エリアの整備後も、動植物の生息環境を維持し保全していくために、地域の理解と協力をいただきながら、今後とも当事業所ではこのような活動を続けていきたいと考えています。



これはなんだ??



メダカの群れ発見!



もうちょっとで見えるかな?



花が咲いていたのはココ、メダカは...